

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント
マグネティック・テープ・アラート
磁気テープ映像の保存に向けてできること

国立劇場公演記録の作成・保存・活用における 磁気テープについて

国立劇場調査養成部調査資料課
宮崎 信子

沿革

- 昭和31年（1956）3月8日

芸能施設調査研究協議会「国立劇場設立に関する答申」

目的 国立劇場は、芸能に関する諸種資料の収集・保存・展観、芸能に関する調査・研究・考証ならびに記録の作成、芸能伝承者の養成ならびに一般芸能基礎教育の実施、芸能の公開等の諸種事業を総合的に推進実施し、もって日本民族の文化遺産である古典芸能を正しく保存するとともに、新しい世代の芸能の創造発展をはかることを目的とする。

- 昭和41年（1966）6月27日

国立劇場法公布

第一章 総則

（目的）第一条 国立劇場は、主としてわが国古来の伝統的な芸能の公開、伝承者の養成、調査研究等を行ない、その保存及び振興を図り、もつて文化の向上に寄与することを目的とする。

沿革

- ・昭和41年（1966）11月1日 国立劇場開場
- ・昭和47年（1972）6月 「国立演芸場設立に関する請願」国会採択
- ・昭和54年（1979）3月22日 国立演芸資料館（国立演芸場）開場
- ・令和4年（2022）9月～令和5年（2023）10月
初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演



※令和5年10月末より、国立劇場再整備等事業のため閉場中

映像記録の作成・保存・活用

□ 公演記録

□ 資料サービス

収録媒体

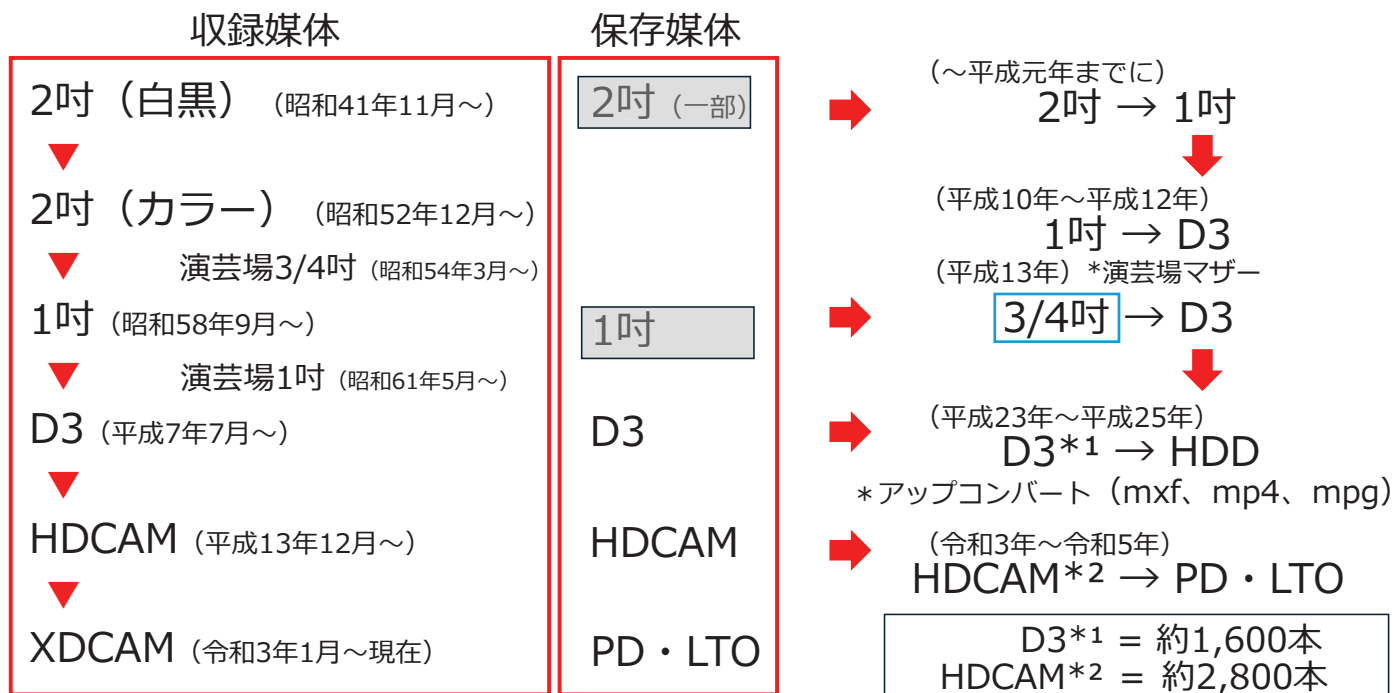
保存媒体

活用媒体

2吋（白黒）（昭和41年11月～）	2吋（一部）	キネレコ（白黒）	3/4吋 β（～平成4年）
▼ 2吋（カラー）（昭和52年12月～）		3/4吋 キネレコ（カラー） （～平成11年11月）	
▼ 演芸場3/4吋（昭和54年3月～）	1吋	D3	S-VHS （昭和63年～平成16年） VHS （平成4年～平成21年）
▼ 1吋（昭和58年9月～）			
▼ 演芸場1吋（昭和61年5月～）			
▼ D3（平成7年7月～）	HDCAM	DVCAM （平成16年～平成30年）	BD・VHS （平成22年～平成28年） BD・DVD （平成28年4月～現在）
▼ HDCAM（平成13年12月～）			
▼ XDCAM（令和3年1月～現在）			
	PD・LTO	BD（平成30年4月～現在）	

映像記録の媒体変換（公演記録）

□ 現在収蔵していない媒体



映像記録の媒体変換（資料サービス）

□ 現在視聴用としていない媒体



映像記録の媒体



D3



3/4吋



DVCAM/BD



HDCAM

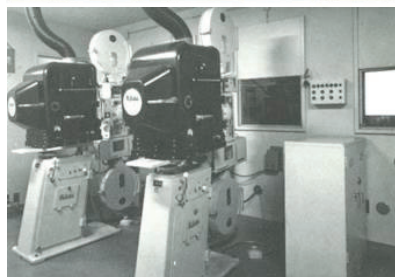


D-BETACAM



S-VHS

映像記録の活用



公演記録鑑賞会

昭和56年9月～
平成14年5月
キネレコ16mm
【国立劇場試写室】

平成15年3月
伝統芸能情報館開館

平成15年3月～
令和元年7月
DVCAM
令和元年8月～
令和3年3月
BD
【レクチャー室】



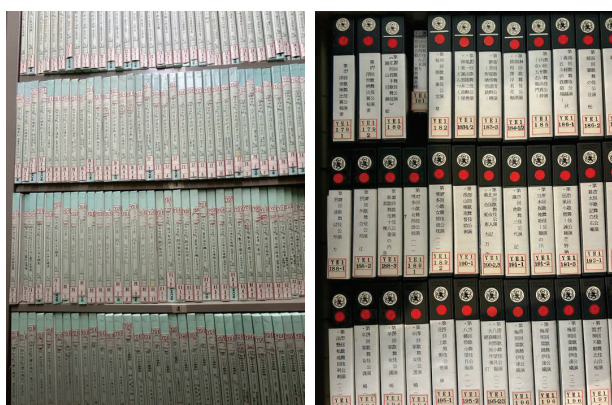
映像記録の活用

- 国立劇場視聴室での一般利用
- 公演制作の参考資料【実演家、舞台スタッフ、制作担当等】
- 養成事業の教材として
- 動画配信、文化デジタルライブラリーでのコンテンツ利用
- 放送、電子媒体出版物（DVD等）などでの利用

◀最近の活用事例▶

伝承が途絶えてしまった演目があり復活させたいため、出演時の映像記録を参考にしたいとの過去の出演団体からの相談事例

音声記録の作成・保存・活用



オープンリール収録 (昭和41年11月～)

▼ 演芸場オープンリール収録 (昭和54年3月～)

DAT収録 (平成5年4月～平成16年)

演芸場DAT収録 (平成6年4月～平成16年)

媒体変換

(平成12年～平成14年)

オープンリール → CD

* 6,790本のうち、4,189本をCD化
公演の映像記録がなく、録音しかないので音声記録での利用が見込まれるもの

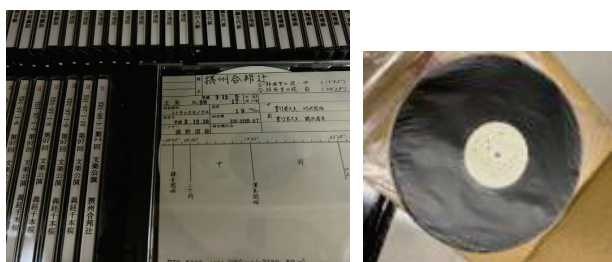
(平成29年～平成30年)

DAT → CD、HDD (WAV)

* 1,630本のうち、約200公演分
平成6年～平成16年に収録された演芸場公演中心

オープンリール → LP

(正) 約270枚 (副) 約250枚
昭和41～44年、51～55年の一部公演 (変換時期不明)



再生機器の保全



国立劇場視聴室

